

県立大磯城山公園「旧吉田茂邸地区」の概要・利用案内

戦後の内閣総理大臣を務めた吉田茂が、その生涯を閉じる昭和42年まで過ごした邸宅跡地です。大磯町が再建した「旧吉田茂邸」や、サンフランシスコ講和条約締結を記念して建てられた兜門、吉田茂がよく散歩したといわれる日本庭園やバラ園などがあります。



旧吉田茂邸地区

- ・開館時間 9:00 ~ 17:00 (入園は16:45まで)
 - ・入場料 無料
 - ・休園日 年末年始(12月29日~1月3日)
- 旧吉田茂邸(大磯町郷土資料館別館)
- ・開館時間 9:00 ~ 16:30 (入館は16:00まで)
 - ・観覧料 一般500円(450円) 中・高校生200円(150円) カッコ内は20名以上の団体料金です。
 - ・休館日 月曜日・毎月1日・年末年始(12月29日~1月4日)

県立大磯城山公園「旧三井別邸地区」の利用案内

茶室「城山庵」

茶道を体験できる茶道出会い教室を、事前予約で開催しているほか、茶会や句会などに貸し出しも行っています。隣接の休憩所では抹茶や和菓子なども楽しめます。



茶室出会教室	茶道ふれあいコース	茶道あじわいコース
体験内容	座り方や立ち方等の姿勢、挨拶の仕方、喫茶、お客としての基本的な作法	お茶、お菓子の頂き方
体験時間	10:00 ~ 12:00 または 13:00 ~ 15:00 のいずれか 2時間	10:00 ~ 15:00 の間 1時間
体験料金	(受講者6人まで) 城山庵使用 5,800円/回 控ノ間使用 4,900円/回 (受講者7~15人まで) 控ノ間使用 7,800円/回	(受講者6人まで) 城山庵使用 3,400円/回 控ノ間使用 2,900円/回 (受講者7~15人まで) 控ノ間使用 4,900円/回
	飲食料 500円/人(生菓子付)	
その他	・申込みは、体験希望日の6ヶ月前から7日前までをお願いします。	

大磯町郷土資料館

大磯および周辺地域の歴史、文化、風土をテーマに展示しています。城山荘に関する展示や資料も充実しています。

- ・開館時間 9:00 ~ 17:00 (入館は16:30まで)
- ・入館料 無料(企画展は有料の場合あり)
- ・休館日 月曜日・毎月1日 年末年始(12月29日~1月4日)



城山荘寄りをモチーフとした外観です



城山荘の広間吹抜部材が展示されています

[お問い合わせ先] 大磯町郷土資料館 TEL 0463-61-4700

散策コース



北蔵ギャラリー

絵画、写真、手芸、陶芸展などの展示ギャラリー、楽器演奏会や講演会などにも利用できます。

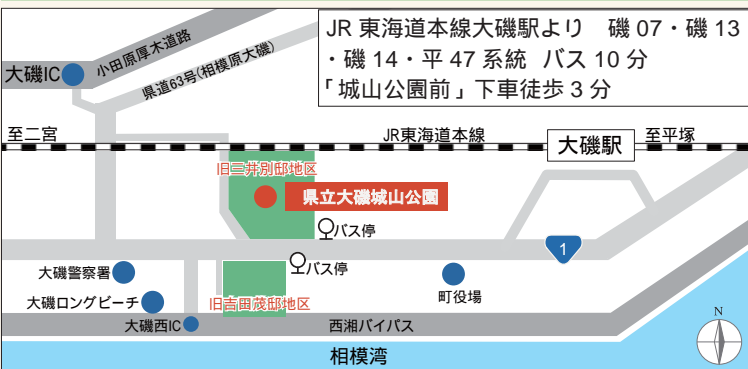
利用される方は、ホームページで予約状況を確認のうえ、利用日の6ヶ月前から1ヶ月前までにご連絡下さい。

[お問い合わせ先] 県立大磯城山公園管理事務所 TEL 0463-61-0355

駐車場 入庫は16:45まで

収容台数	第1駐車場		第2駐車場		第4駐車場	
	普通車	身障者用	普通車	身障者用	普通車	身障者用
	34台	2台	17台	2台	23台	1台
	中型車以上				2台	
利用時間	8:30 ~ 17:00		8:30 ~ 17:00		9:00 ~ 17:00	
料金	土日祝日	普通車	1時間300円 以降30分毎150円	無料	1時間300円 以降30分毎150円	
		中型車以上			1時間1200円 以降30分毎600円 中型車以上は要予約	
	平日	無料	無料	無料	無料	
年末年始 (12月29日~1月3日)		無料	無料	無料	閉場	

アクセス



県立大磯城山公園

旧三井別邸地区



「湘南情緒」に包まれた、清閑なたたずまい

展望台(旧城山荘本館跡)・北蔵

展望台からは、富士山、箱根連山、伊豆半島にかけての山並みや相模湾、伊豆大島を一望することができます。

ここでは、かつて丘陵の地形を巧みに利用して建てられた城山荘本館がありました。建物は、茅葺き屋根の地下1階・地上3階で、建物中央部には「養老閣」と呼ばれた四層の八角形の塔が組み込まれた独特なデザインとなっていました。

北蔵は、当時の施設の中で唯一東蔵と共に現存している建物で、ギャラリーとして一般開放しています。



城山荘の玄関周辺の石組みは現在も一部残っています



正面が「養老閣」現在の展望台は養老閣と同じ8角形で、屋根の上に鶴の置物を配置しています

不動池・もみじの広場・茶室「城山庵」・国府橋

展望台から不動池にいたる西北山麓一帯では、三井時代から残る小道の散策が楽しめます。



通雲橋：国府橋のあるところには、京都東福寺の通天橋の古材を使用した檜皮葺屋根と腰掛のある「通雲橋」が架かっていました



小滝綾ノ滝



茶室「城山庵」

不動池のまわりは滝やせせらぎ、モミジが彩る日本庭園で、紅葉の時期にはライトアップが行われます。

「如庵」を模した茶室「城山庵」は、窯場「城山窯」があった場所に建てられ、その北側のもみじの広場には、陶器細工所「潜庵」がありました。

県立大磯城山公園 旧三井別邸地区の概要

明治以前の城山

旧三井別邸地区は大磯丘陵に連なる尾根上に位置し、縄文時代の土器や古墳時代の横穴墓が発掘され、鎌倉時代には京につながる鎌倉街道がありました。室町時代には山城の小磯城が築かれたとも言われています。

三井家別荘時代の城山

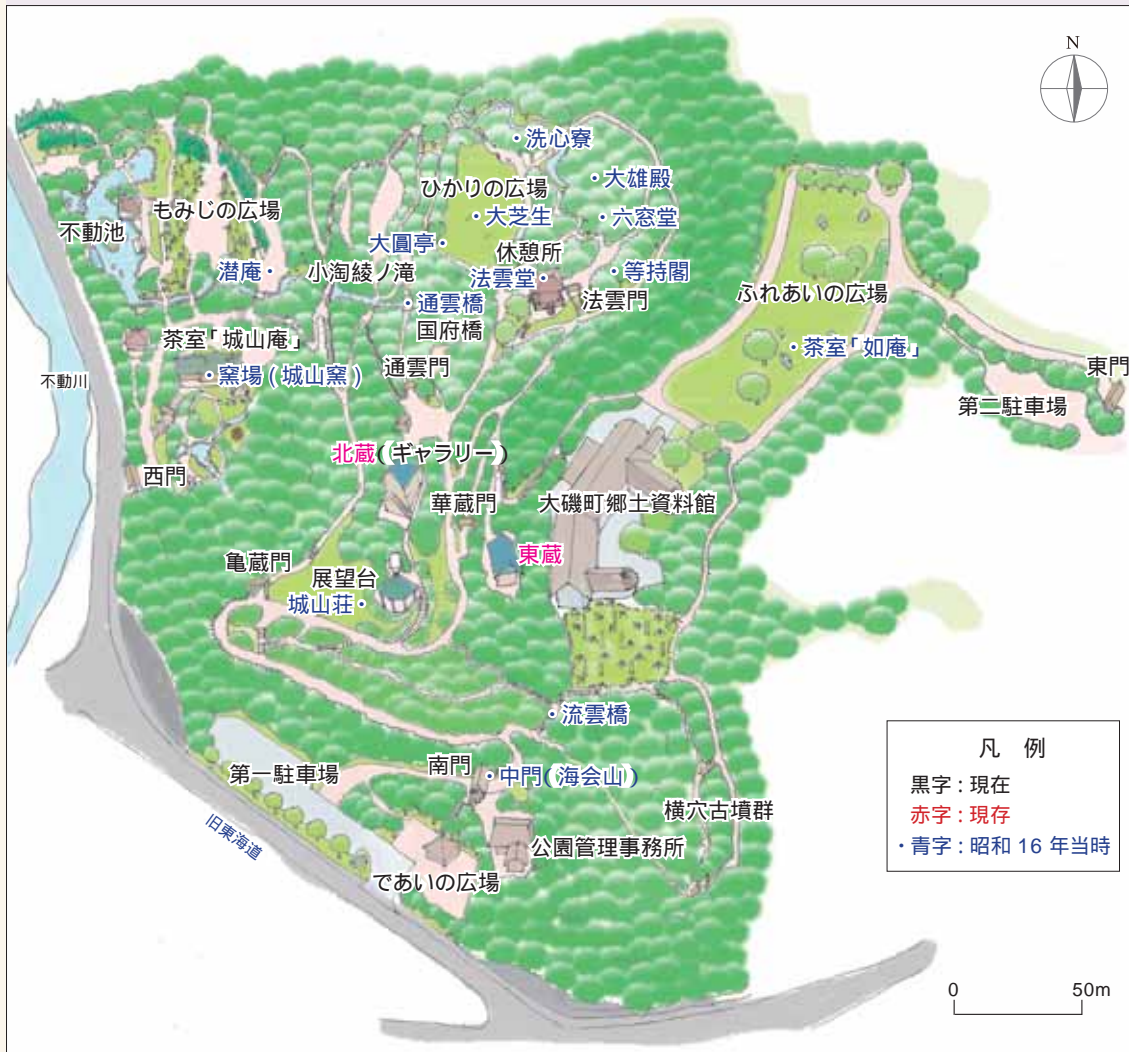
明治28年(1895)頃には、三井家の十代当主三井八郎右衛門高棟の別荘地となりました。高棟は昭和8年(1933)に大磯へ隠居した後、7ヘクタールにも及ぶ敷地内に、延500坪を超える「城山荘」や様々な建造物を配置した大がかりな造園を行いました。

県立大磯城山公園として開園

時の移り変わりにより荒廃した時期もありましたが、多くの人々の声を受け、昭和58年(1983)、都市計画公園に指定され、その後整備を経て平成2年(1990)に全面開園となりました。



昭和3年 茶室「如庵」での三井高棟



であいの広場・南門

旧街道に面したであいの広場から、ゆるやかな坂道を登っていくと南門があります。南門は、かつての「中門(海会山)」と同じ場所に配置しており、松林の中を蛇行して城山荘へ向かった往時の庭園的な景観を残しています。

東側斜面には古墳時代の横穴墓を見ることができます。



中門：薬師寺(奈良県)管主橋本凝庵の書による「海会山」の額を掲げていました



流雲橋：階段の上にかけていられた橋げたの礎石の一部が現在でも残っています

ひかりの広場

ひかりの広場周辺には、多くの御堂などが点在していました。今は移築されて残っていませんが、当時の地形や通路を利用し、落ち着いた雰囲気醸し出しています。



大圓亭：あずま風の休憩所で鬼瓦は浅草寺の古材が使われていました



法雲堂：主に薬師寺の古材を用いて建てられています。台座はそのまま残され、現在は休憩所が設置されています



大雄殿：薬師寺にあった旧摩利支天堂が移築されていました



六窓堂：正六角形のあずまやで敷瓦は城山窯製が使われていました。現在は外周礎石だけが残っています

【社寺の古材】 明治維新後、それまでの社寺の庇護者であった旧体制が崩壊し、社寺の運営は個人や財閥の寄進に頼らざるを得ませんでした。三井高棟は京都で育ち、社寺の維持に費用がかかることを承知していたからか、修理を行う際に不要となった古材を集め、城山荘や園内の建築物に余すことなく使っていました。奈良の薬師寺や東京の浅草寺など、総数は28にも上り、各地の古社寺とつながりも深かったようです。

ふれあいの広場(茶室「如庵」跡)

ふれあいの広場は、国・茶室「如庵」跡地であり、現在は、東門からの通路北側のロータリー、庭石などが残り、当時の面影を偲べます。

「如庵」は茶人織田有楽斎が元和4年(1618)に京都東山の建仁寺に創建した茶室で、明治41年(1908)に三井家へ売却され、東京今井町の本邸に移築されました。昭和11年(1936)に国宝の指定を受けましたが、震災や空襲の恐れから昭和12年(1937)に露地や付属書院共々大磯の城山荘へ移築されました。

※ 織田有楽斎：織田信長の弟。武将であったが茶人で有名。「有楽流」という名を後世に伝えました。東京の有楽町は有楽斎の屋敷がそこにあったことから生れた地名です。



如庵：愛知県犬山市へ移築され、現在もその姿を伝えています。また、片桐門はMOA美術館(熱海)に移築されています

